学園ニュース

富山大学

NO. 41

編集 学園ニュース編集委員会　発行 富山大学　　昭和58年3月17日

学内風景（その6）メインストリート　手操能人

―― 目　　次 ――

卒業生への餞けの言葉……各学部長及び経営短期大学部主事… 2

退職者のあいさつ …… 7

新任教官紹介及びあいさつ …… 8

公開講座委員会について……公開講座委員会委員長（教養部教授）　藤井昭二 … 9

ドイツにおける私の時間……教育学部養護学校教員養成課程　3年　石倉充紀 …10

請多関照ーどうぞ，よろしくー ……中国政府派遣研究留学生　胡　国良 …10

生活協同組合創立20周年に当って……生活協同組合理事長（教養部教授）　藤井昭二 …11

教養部，学生部だより ……12

卒　業　生　諸　君　へ

―ものの見方について―

人文学部長　本　田　　弘

昭和２５年夏に発刊を見た笠信太郎著『ものの見方について』は，当時たちまちベストセラーとなり，版を重ねて今日なお読み続けられているのではなかろうか。この書は，戦前戦後を生きる人々には忘れ難い深い感銘を与えた書として記憶されているはずである。もっとも私がこの書を最初に読んだのは，昭和４３年。しかし，学ぶことの甚だ多かった書として座右においている。もし卒業生諸君の中に未だ読んでいない人がいるとすれば，一読を薦めたい。角川文庫におさめられているはずである。

ところで，私が掲げる副題は，この書とは些か趣きを異にしている。人間の生の営みを根底において支えているはずの価値観との係わりにおけるものである。

一般に，人間は，多種多様な知識（技術を含め）を身につけ，それを拠り所として生活を営んでいる。しかしながら，人間は，この知識をどのようにして獲得するのであろうか。日本のごとく教育制度が整っているところでは，学校教育を中心にしてと言いうるかもしれない。しかし，同程度の学校教育を受け，専門を同じくするという場合においても，両者を比較した場合，習得されている知識には相共通する部分を含みながらも，両者の間には大きな相違が見られるのではなかろうか。

人間は，鏡のごとく対象を精確に隅なく写しとるというような仕方で，知識を吸収しているのではない。与えられたものを，人は，自分の関心，好みに即して受けとめ，形を整えて自分の知識としている。これが人間の知識習得，事がらの理解における基本である。したがって，当人にとって関心のない事がら，興味のない事象は，顧みられることなく捨て去られていくことも，人間善進の事実である。あらゆる事象を偏りなく，十全な仕方で把握することもまた不可能なことである。

かつまた，関心や興味は，人がそれぞれにたてる人生の諸目的に即して自ずから異なる。ちなみに生きることとは，目的を設定し，その都度の目的の実現を目標にして励むことであり，目的の設定が消える時期は，またその人の人生の終焉の時でもあろう。

目的の設定と関心，興味とは，相補関係にあり，いずれが先行するかは別として，それらのいずれも，人それぞれの価値観に基づくことは確かである。

ところでまた，世界や人生－自然に存する事実は，無限であるのに対して，人間の経験は，有限である。百年を生きえたとしても，百年の経験をとおして知りうる人生や世界，自然についての事実は，大海の一滴に等しい程度のもでしかないかもしれない。

しかも，経験から得られる多種多様な事実を整理して，これを一つの知識として纏めるのは，われわれ自身である。自立や人生や世界がわれわれに多種多様な事実を示すとしても，それは，知識としてではない。知識は，もともとは，人間自身の手によってそれ自身において，すでに人為的に加工されたものである。

他方また，先に触れたごとく事実の受け取り方は，各人各様である。人それぞれの関心やその都度の目的に即しての事実の受けとめ方も自ずから異なる。

人間は，己れの立つ視点，関心からしか世界や人生自然，敷衍すれば，政治，経済，教育，文化，社会，家庭に係わる諸問題を講じ，理解しているにすぎないのである。更に敢えて言えば，全体をではなく，全体から切りとられた部分を全体と思いこみながら，世界や人生，自然を読じているだけのことである。

神から見れば，戯れに類する事がらと言いうるかも知れないはずである。

私が卒業生諸君に訴えたいのは，われわれがいかに狭い視野からしか，かつまた，各自独特の偏った視点からしかもの事を見ていないか。いかに有限な自己の狭い経験から無限な広がりと深さとをもつ世界や人生，自然を無理に割り切ろうとしているか，その落差と狂いの大きさになによりも注意をはらってもらいたいということである。

しかしながら，先に触れたごとく，われわれが乏しい材料と偏った視点からしか世界や人生，自然を理解しえないとしても，そのことは，人間にして避けることのできない事がらであり，それを悲しむ必要はなんら存しないであろう。明治３６年５月華厳の滝に身を投じた藤村操が残した「巌頭之感」は「悠々たる哉天

壌，遼々たる哉今日，五尺の小軀を以て此大をはからむとす。ホレーショの哲学竟に何等のオーソリチーを値いするものぞ。萬有の真理は唯一言にして悉す日く「不可解」。我この恨を懐いて煩悶終に死を決するに至る。既に巌頭に立つに及んで胸中何等の不安あるなし。初めて知る大なる悲観は大なる楽観に一致すると。」と記している。藤村操の言もまた真理を含むと言えよう。しかし，人生は不可解だとしても，華厳の滝に身を投ずることはなかろう。

世界や人生，自然に対する関心や興味を豊かなものにさせるように心がけながら，ものの見方，その視野を少しでも広めるように励んでもらいたいのである。

人生は，労多く，先先は闇夜のごときものだとしても，光もまた絶えることがないと，私は信じている。

卒　業　生　に　贈　る

教育学部長　大　澤　欽　治

卒業生諸君　ご卒業おめでとう。

諸君は１０数年の長きにわたる学校教育を経て，今日いよいよ，ここに大学教育を最後に，所定の学業を全うするのであります。このことは人生にとって大きな一つの節目になり，たいへん意義深いことでありますから，諸君にとって，さぞ感慨深いことでありましょう。とりわけ，これまでに慈しみ育て，見守ってくださった，ご両親やご家族，それに小学校入学以来の多くの先生方に深い感謝を捧げることを忘れてはならないでしょう。

さて，卒業は迎えましたが，現在の諸君の胸中はいかがですか。おそらく手離しで喜こんでおれないのでないかと推察しています。全員が首尾よく教壇に立つことが出来ない今日，私共にとりましても，大層心苦しいものがあります。年々歳々卒業生の質が向上し，よい成績をおさめているといわれているにもかかわらず，需給のバランスがとれないため，残念な結果になっています。落胆することなく，時を待つことも人生勉強の一つと心得，教育者へと動機づけられた初心を貫徹してください。そして卒業した暁は独立独歩の精神を堅持して，諸君の若々しく新鮮なセンスと教養とに満ちた良識によって，正しく判断する力と旺盛な実践力をもって人生航路に船出していかれんことを祈念してやみません。

諸君の教師になる喜びの体験は，きっと教育実習の際に最もよく味わったのではないかと思います。そしてそれぞれが，自分なりに好ましい教師像を心に描いてみたことでしょう。例えば，<子供の立場になれる教師になろう>とか<公平な教師になろう><子供になつかれ，信頼される教師になろう>などと多感に思いをめぐらしたことでしょう。また，時には自分の最も尊敬する先生の姿を思い浮べ，いつの間にかそれを模範としていることもあったでしょう。

私の友人（元小学校長）が教師としての資質について話してくれたこと，それは今から１０数年も以前のことですが，今でも忘れずに，時折学生と談笑したことです。教師は<ししゃごにゅう>ができなくてはならないと言うことなのです。私はそれを<四捨五入>すること，つまり徹底的にやらないで，適当に問題を切り捨て，無難にすごすことを意味するのかと一瞬考えました。ところが，この<しゃ>は<四者>であって，<学者・医者・役者・易者>の四者のことだったのです。教師は第一に学問の原点をわきまえ，常に学究的で，子供の知識慾を満たしてやり，学力をつけることができること。第二には子供の顔や姿を見て，心や体の健康状態を敏感に観察し，見守る医者的関心と能力があってほしいこと。そして第三には，役者的資質を持つことを願っているのです。<人生は芝居なり。そして人生は小説よりも奇なり>とか言いますが，教育の場でも演出的効果を考えるだけのゆとりをもち，時にはピエロ的に，ユーモアもとばして明るく，楽しい雰囲気を醸すことができなくてはなりません。最後の第四は，時には易者のように子供の将来を見透すことも必要であると言っています。子供の将来を予言することは至難であり，危険でもありますが，しかしこれは子供自身の夢を育てる一助にもなるからです。小・中学校時代の先生の教育は往々にして，子供の生涯を決定するほどの影響力を発揮するものです。もちろん，それだけに慎重に振舞はなくてはならないでしょう。四者について，諸君なりに，いろいろと解釈してくださると面白いでしょう。

ところで，私は以上に加えて，もう少し要望したいことがあります。芸術と宗教に関するセンスをいくらかでも教養として具備するということがそれで

す。これらが基礎となって，悟(五)入する可能性が生じてくるのではないでしょうか。諸君の教師としての営みが以上のような内容をもつ熱烈な使命感によって，生涯続けられていくことを願ってやみません。

最後に，福沢輸吉の『心訓』よりの一節「世の中で一番楽しく，立派なことは，生涯を貫く仕事を持つことです」を，はなむけとします。

卒業するとどうなる？

経済学部長　棚　田　良　平

まず，卒業生諸君の御父兄に心からお祝い申し上げます。わたくしにも大学を卒業した娘がおりますが，出来の悪い子供をもちますと——わたくしの娘の場合は遺伝でしたが——親は大変苦労いたします。どうやらこれでひと安心なされたことかと存じ上げます。これからの人生は本人の責任です。われわれ親どもは，子離れしてゆっくり老後を楽しもうではありませんか。

つぎに，卒業生諸君にはほんの少しお祝い申し上げよう。だいたい，大学というところは，入るのが難しくても出るのは簡単なのだから，卒業して当然，卒業しないほうが不思議なのだ。とはいうものの，入ったまま出てゆけない連中もいるので，卒業生諸君には，その点でおめでとうと申し上げる次第である。

さて，卒業したが諸君はこの先どうなるのだろう。かって卒業後民間会社に就職した経験をもつわたくしは，諸君の運命をつぎのように予言できる。

(1) 諸君は，これでもう，つまらない講義を——たとえば，わたくしの会社法などを聞かなくてもすむ。しかし，今度は職場で，たとえ尊敬できない上司であっても，その命令にいやおうなしに服従させられるであろう。職場での諸君は，しばしば，がまんできない人間とのつき合いを余儀なくされよう。そして諸君はその際，これまでなんとなく軽く見ていた大学の教官というものが，思いやりのあるかなりマシな人種であったことに気付くはずである。（あまり，自信がないが——）。

(2) とうとう「学割」がきかなくなる。映画館や通学定期券だけでなく，あらゆる面で「学生だから」というこれまでの情状酌量は失われるであろう。諸君の行為に対して，人並みの代償が要求されることになる。

(3) 大学時代には全然モテなかった諸君であるが，職場ではフレッシ・マンとして異性からチヤホヤされることであろう。ただし，その期間はつぎの新卒が入社してくるまでの1年間に限られる。

(4) 諸君のこれからの人生から，あの素晴らしい夏休み・冬休み・春休みは永遠に消え去ることになる。諸君は自由な時間の貴重さを痛感するであろう。そしておそらく，無為にすごした日々を嘆くに違いない。しかし，もう遅い。

(5) 諸君は大学卒というレッテルを得る。そのため，実体とは無関係に「インテリ」と呼ばれることがあるだろう。縁談にほんの少しプラスになるかもしれない。それだけ。

(6) 大学では授業をサボッても，他に影響を与えることはなかった。しかし，職場ではグループの一員として行動することになり，欠勤や遅刻はグループに多大の迷惑を及ぼす。やがて，諸君はグループから疎外されることになろう。

(7) 大学での上級生は生涯先輩であり，同級生は生涯同輩であり，下級生は生涯後輩である。しかし，職場では入社同期生や後から入社した者が諸君の上司となり，諸君を命令・支配することが少なくない。諸君はその屈辱にたえられるであろうか？

ともあれ，いまや，諸君はそれぞれ自らの運命を選択したのである。諸君は，大学において4年間（人によっては，もっと長く），本来なれば勉学にあてらるべきエネルギーをかなり未使用のまま蓄電してきた。この巨大なエネルギーを放電すべきときがきたのである。一度きりの人生。思い切りやってみようではないか。再見!!

（おわり）

たゞ一日早やければよい

理学部長　竹　内　豊三郎

「世の中に成功したければ，ずば抜けて利口である必要はない。ただ一日早ければよい」これはシラードの有名言葉の一つである。シラードはハンガリー生まれのユダヤ系の物理学者で，ウランの連鎖反応を見つけ，アメリカの「マンハッタン計画」に参加した主要人物の一人として知られている。彼がベルリン大学のラウエ教授のもとで研究しているとき，ヒットラーによりユダヤ人の追放が始った。彼と同じようなユダヤ系の科学者がまだドイツで安閑として研究していたとき，いち早く身の危険を感じて，ドイツを逃げてアメリカに渡った。その時の取り調べのきびしい超満員の汽車の中で，このように思ったそうである。それまで殆んど無名の彼が，アメリカに同じ頃渡って来たイタリーのノーベル賞の授賞者フェルミーと核の連鎖反応の実証に競争したやり方は，まさに，一日早く歩くというやり方であった。不幸なことに彼の開発した核分裂の実験は彼の反対にもかかわらずアメリカ政府によって広島と長崎とで行われてしまった。彼が自分自身のために作った十戒の中のいくつかの言葉は研究にたづさわる私達だけではなく，これから世間に出て働こうとする諸君にも役に立ちそうに思われる。 (1) 物事の連関と人間の行動法則を理解すれば，自分の行為が何んであるか知ることが出来る。 (4) 自分が創造出来ないものを破壊してはならない。

シラードはアメリカに貢献したが，その政府から最終的には無視されてしまった。

しかし，その業績は永久に消えることはないであろう。一日早く行動を起すには，強い勇気と細心の計画とがなければならない。

新しいことを発見した人は，他人の後からは歩いていない。

卒業生諸君に贈る

工学部長　大　井　信　一

工学部および工学研究科の諸君が，所定の単位を修得し，めでたく学窓を去るにあたり心からお祝いを申します。諸君の喜びもさることながら，この日を鶴首して待っておられた御両親や御家族の方々のお喜びはいかばかりかと推察致します。

さて，富山大学における最後の学生生活を終えた諸君は，新たなる希望と自己の可能性をさぐる決意にもえて実社会に出ようとしておりますが，諸君を迎える社会環境はこのところ一段と厳しさを増しております。低迷をつづける経済市況のほかに国内的には，財政再建や行政改革の難問が山積しており，国際的には，貿易摩擦がさけて通れない重大な障壁となって我国産業界の前途に大きく立ちはだかっております。これらの問題を短期間に効果的に解決するのは並大低のことではありませんが，国民の総力を挙げて立ちむかわなくてはなりません。これらを解決するには，どうしても自由化に対抗できる国際競争力をつけるため，生産性の向上と我国独自の知識集約型産業を振興し，付加価値の高い製品をつくって行くより方法がないと思われます。素材型産業の企業も多角的にこのような先端技術型産業の分野に進出し，企業間の開発，生産，販売競争もますます熾烈になってくるように思われます。

したがって，産業界はこれらの要求に対応する知識と視野をもった創造性の豊かな工業技術者を渇望している現状であります。これからはより厳しく個々の技術者の能力，真価が問われると思います。そして個々の能力を広く結集した総合力を発揮せねばならなくなるでしょう。技術者一人一人は常に追求心，探究心を失わず，要因を分析し，事象を総合する能力を養ない問題の処理に当って基礎知識を広く応用する努力を積重ねて行く。そして次第に豊富な経験に裏打された自己の能力をどんな環境においても，いかんなく発揮できる自信をもった技術者に成長して慾しいと思います。

それでもなお，個人の能力には限界があります。とくにこれからは幾つかの分野にまたがる学際的問題の解決を迫られる場合が多くなりましょう。これに対応するため，これからの技術者は単一の専門のみならず複数の専門分野において，それほど深くなくてもよいが，できるだけ広範な総合的な知識に親しんでいることが必要になってくるでしょう。期待される技術者

像としては，もう一つ専門を持つことだと思います。

一つのことをなしとげるには，大略５００，1,500，5,０００時間の三つの壁があるといわれています。第一の壁をこえると初心者レベル，第二で素人ばなれ，そして第三が熟達家のレベルといわれております。勿論物事の難易深浅によって，これは伸縮するでしょうが，これから実社会に出れば，諸君は専門以外の分野において，好むと好まざるとにかかわらず，このような努力をしなければならないでしょう。

８０年代にはばたく諸君の前途は多難であると共に，諸君に寄せる期待も亦大なるものがあります。どうぞくれぐれも御健康に留意され御活躍されることを祈ります。

卒業生の皆さんに期待して

経営短期大学部主事　　瀧　　好　英

経営短期大学部を卒業される皆さん，お目出とうございます。このたび，皆さんは，３年間の夜間部学習による所定のコースをマスターされ，晴れて卒業の日を迎えられたもので，まことに喜ばしい限りです。

思うに，本学経営短大は，勤労者に高等教育の機会を提供することを主たる目的として設立されたものと考えられます。現に，卒業生の皆さんの約８０％の方が，有職者で，パートやバイトの形で就業している者も含めれば，有職者率はほとんど１００％近くに達するものと推測されています。その結果，学生の年齢構造がきわめて幅広く，学生層が多彩をきわめている点も，一般大学の場合と著しく違っている性格の一つにあげられましょう。在学生の年齢が，１８才の下限から，４０台半ばに達する上限まで分布の幅がきわめて広いことは，とりもなおさず，高校を卒業して社会に出てからかなりの年月を過ぎても，なおかつ学問への意欲をもっている者が多いことの証左で，敬服の至りであります。

最近，「生涯教育」という言葉をよく耳にするようになりました。国立短大主事会議の席でも，この問題の取り上げられることが少なくありません。生涯教育という言葉はやや押し付けがましい響きも感じられますが，本来の主旨は，「生涯学習」を助けることにあるのではないかと思われます。つねに人間性の向上を考えていくことが，暮らしを豊かにするための必須の条件であるとする考え方から，人間は絶えず学習する姿勢が必要であるということなのであろうと私は解釈しています。事実，中央教育審議会から文部大臣宛に提出された『生涯教育について』という答申（昭和56年６月）でも，「人々が自己の充実や生活向上のためその自発的意思に基づき，必要に応じ自己に適した手段・方法を自ら選んで行う学習が生涯学習である」と説明しています。

こうした国民的ニーズともなりつつある生涯学習の主旨に沿って，いまや多くの教育機関で，生涯教育への協力体制を研究し始めるようになりました。本学においても例外ではなく，たとえば，公開講座の実施方について検討しつつあります。とは言え，生涯教育体制が多方面にわたって具体的に機能するのはまだまだ先のことと言わざるを得ません。

いずれにせよ，絶え間なく自らの意思で学習を続けることは，特殊な職業の人は別として，一般にはきわめて大変な苦労を伴うことでしょう。しかし，その苦労を徐々に克服していくことが喜びに通ずるものであり，「苦労が大きければ大きいほどその後の喜びも大きい」という言い古された言葉が思い出されます。

卒業生の皆さんにとって，この３年間の学習を通じて少しでも専門科目の知識を身につけられたことは，大変大きな意義があると思います。しかし，それらが実社会で活かされるためには，今後とも学問を続けていく必要があります。短大卒業ということは，単なる学歴を取得するという形式的なものだけではなく，生きた学問を始める―生涯学習を自らの意思で始める―端緒を得たという実質的意義のあることも銘記すべきではないでしょうか。短大で学ばれたことを一つの手がかり足がかりとして，今度は，独自の学習を始められるよう期待されます。勿論，これからの学習は，大学という制度のもとで必要最少限の学習ルールを定めて強要されるのとは著しく違ってくるはずです。一人一人が，自分に適した目標を設定して，目標に見合った，自分に適した思索の方法を続けていくことになります。短大で経験したことを基礎として，豊かな社会生活を築いていかれることを期待してやみません。

□□□　昭和５８年４月１日退職者　□□□

○　昭和５８年４月１日限り停年により退職

教育学部　文部教官　教授　小　倉　玄　吾

経済学部　文部教官　教授　石　瀬　秀　治

理　学　部　文部教官　教授　竹　内　豊三郎

教　養　部　文部教官　教授　二　神　　弘

別　れ　に

教育学部教授　小　倉　玄　吾

静かに消えて行きたいのが私の心境でしたのに，原稿用紙の入った封筒を渡され，表紙に「退官の感想を」「題は自由」と書いてありました。「許して下さい」と言いますと「慣例ですから」と編集委員先生の御言葉，余り臍曲りになっても困りますので。

一銭五厘の戦争犯罪人，命永らえて六十五才の定年退職の時を迎えました。何とも自責と悔悟の念に耐えません。いったい私は何を償え得たのだろうかと。

願わくば次の世代の，そしてその次の世代の人々まで平和で，自然を愛し，人を愛し，近くは隣人が愛し合える社会を。如何なる美名の下でも若い生命を奪うことのない社会を形成するため，両面の文化の創造のために，深い，高い研究と，自ら求めて止まない勉学の場となる様な美しい学園となります様に希求いたします。益々の御盛栄を希いつつ，羽根のもぐらのたわごとを終ります。さようなら

定　年　を　迎　え　て

経済学部教授　石　瀬　秀　治

私は今度定年で退官を迎えることになりました。私はわが国の曾っての敗戦直後の昭和２０年１２月に旧制富山高等学校に，次いで昭和２４年より新制富山大学に奉職し，その他通算して４１年間余り学びの窓で広く切瑳琢磨を頂きながら今日にまで至ったことに一応は安堵し，そうした運命を持ち得たことに厚く感謝もしている次第であります。

然し，私は，我が国における曾っての悲惨無慙なる１５年戦争に遂に生き残った者として，新めて当時の同じ世代者で戦死された多くの方々達に痛く哀悼合掌し，将来の人類社会における普き福祉と真の世界恒久平和の現成を一つの重要なる悲願としながら，成程の学習を続け，又メメント・モリmemento moriのうちに，巡礼の心境で，自今の命を生きて参る所存であります。

尚，私は社甫の次のような句（鼓角の詩）などに親しい興趣を感ずるようになっている昨今でもあります。

抱葉寒蟬静　歸山独鳥遅

以　上

告　別　の　言　葉

理学部教授　竹　内　豊三郎

長い間，楽しく勤めることが出来て本当に有難うございました。これまでに私が勤めた４分の３が富山大学です。それでも，またゝくまに過ぎました。富山大学に３０年も過すとは，夢にも思わなかったことでした。このまたゝく間にも，いろいろなことがありました。それから，たくさんの教官，事務官，それに学生諸君とこの大学で別れました。そして私が去る番になりました。仏教でいう流転ということでしょう。

振り返ってみますと，いろいろあったことも皆，消えてしまうように思われます。渚を歩く足跡のように消えた足跡の代りを作ろうと，先へ，先へと歩いて行っても，振り返えると同じことです。これが命あるも

のの業というものでしよう。私が去る前に，既に若い人々が力を込めて歩いています。歴史とはこうしたことをいうのでしよう。皆さん，元気よく歩いて，また，つぎの世代に引きついで下さい。

いろいろと協力し，御援助して下さいました皆さんに心からお礼を申し上げます。　（２月１４日）

停　年　退　官　の　辯

教養部教授　二　神　　弘

古くから慣用されている「人生五十年」というフレーズがあるが，私はそれを十五年も越えて，既に六十五才という若き日には無縁とも感じていた年令に達し，近く停年退官の日を迎えようとしている。

このような人生の一つの大きな節目を迎えようとしているのに，なぜか私は至極淡々たる心境である。

別に衒って言っている心算はない。今の私の気持は本当にそうなのである。

想えば,昭和二十年八月十五日日本が無条件降伏した日，私は天号作戦（沖縄作戦）に参加して負傷し，信州の陸軍病院で入院加療中であった。この日，すべての傷病患者，軍医，衛生下士官，兵が整列して，正午の重大ニュースを聞いた。ラジオの雑音が激しく,放送内容が不可解なままに二三日が過ぎた。デマ情報の乱れ飛ぶなかで，それが敗戦の放送であることが明確になった時,陸軍病院内は騒然となった。若い将校達が私の病室に来て，「少佐殿！日本は，これからどうなるのでしようか？」「私達は今後，どうすればよろしいのでしようか？」と，キッとなって私を見つめた彼等の射るような黒い瞳を今でも忘れることはできない。

私は，これからの日本の進むべき道について，そしてその中での自らの生き方について私の考えを卒直に語った。その時の私の気持は，なぜか格別の昂ぶりもなく，至極淡々たるものであった。衒って言っているのではない。誇張して言っているのではない。本当にそうであったのである。

このように終戦，停年，そしてその他のいくつかの人生の節目を迎えてきたが，なぜか私は常に格別の昂ぶりもなく淡々たる想いであった。理由は私にもよく判らないが，もしかしたら私が人生を「Such is life！（これが人生さ！これが浮世さ！位の意味）」と観じているためなのかも知れない。戦後，「老兵は死せず，消え去るのみ！」と言って日本を去って行ったアメリカの老将の心境と基底において一脈相通ずるものがあるのかも知れない。

停年退官とともに，十五年間住んだ富山を去る。そして私は次の私のターゲットに向って，かって私がそうであったように私らしくChallengeしていくつもりである。もし誰かから，私に「最後に何か一つお別れの言葉を！」と乞われたら，私は躊躇することなく，私の最も大切にしている言葉の一つ〝Challenge〟を差し上げることであろう。そして，その時もまた恐らく私は，格別の昂ぶりもなく至極淡々たる心境であることであろう。

═ 新　任　教　官 ═

○観山（みやま）　雪陽（せつよう）　教　授（教養部）　57.10.16

昭34.3　京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

担当：哲学

新　任　の　ご　挨　拶

教養部教授　観　山　雪　陽

昨年１０月１６日付けで哲学担当の教官として着任してから４ケ月ほど経ちまして少し慣れたところです。大学の機構は前任大学とほぼ同じで，委員会の種類の多いこと，それぞれ多忙そうであること，教授会での議論が活発であることも共通しているようです。

当地に参るに当って，同僚たちが，その年になって

今さら豪雪地帯へ赴くとは，と半ば同情してくれたものです。しかし，「胡馬は北風に依る」というのでしょうか，富山県は私の故郷でもあり，言葉には表わしえない体に染みついた愛着がありまして，雪が降り出すと待ち人来たると言った懐しささえ感じます。腕白ざかりの頃，夏は終日海や河で泳ぎまわり，冬は日暮になって濡れた服がバリバリに凍りつくまでスキーやそりで遊びまわったことを懐しく思い出します。雪の分量の多いのには閉口することがありますが，雪に埋もれたような状態で静かに読書をしたり，人びとと語り合ったりすることができるのも，表日本では味わえぬ趣きであります。

幸いにして，本学には真摯で地味な学究が多数おられますから，種々の方面で御教示を受けながら，研究を続けたいと思います。

公開講座委員会について

公開講座委員会委員長（教養部教授）　藤　井　昭　二

５７年１２月１６日，初めての公開講座委員会が規則に基づいて開かれました。

本委員会は「本学の教育・研究を広く社会に開放し，地域社会の文化向上に資すること」がその目的となっています。昭和４２年に教養部と教育学部が公開講座を開いて１５年間がすぎました。すこし遅いようですが公開講座委員会ができて全学でこの問題を討論する機会ができたことは大学のためにも地域のためにも喜ばしいことです。各部局の公開講座は今までもあり，今後も続くことと思います。しかし富山大学は総合大学として富山にありますので，各部局の関係した公開講座ができたらという願望で本委員会ができたものと思います。

人文系，社会系，理学系，教育系と選出母体によりそれぞれの委員の発想の方法が異なり，委員長の司会の不慣れなどで共通理解に到達するのに時間がかかりました。せっかくの全学委員会であるので各部局の参加できる題が望ましいというので何回か討論され「現代を考える」という題がきまりました。また「コミュニケーション（假題）」という題での企画がなされています。これが皆様の目にふれる時は殆ど決まっていることと思いますが，今後のこともあり，委員が講師をお願いにきましたときはどうぞよろしくお願いいたします。

教育学部と教養部の体育系の先生方で実技を中心とする公開講座が３コース計画されています。

教養部でも例年のように「生きる」という公開講座が予定されています。

開かれた大学は文部省の方針でもあり，日教組の方針でもありますが，なかなか大学が開かれないのは何故でしょうか？研究に忙しすぎるためでしょうか？謙譲の美徳のためでしょうか？

生涯教育・公開講座・放送大学・大学図書館の一般開放等将来大学に要請される多くの問題が考えられます。金沢大学と他２大学で大学教育開放センターがつくられ定員がついているようです。

私事ですが紙面の余裕がありますので，１９７７年在外研究の際かいまみた生涯教育のことをのべます。

コーネル大学は北米東部イサカという小さな町にあり，大学は門も門番もいませんでした。正規の授業以外に世界中から研究交流にみえた碩学の講演会が週に２桁位の数であり，一般の参加も自由でした。といっても市民の殆どが大学に何かのかたちで関係している町でしたが。

スコットランドのスターリング大学で第四紀学会の巡検がありました。夏休なのに泊まった学寮や食堂は老若男女であふれ大変な熱気でした。バーミンガム大学でわかったのですがOpen Uuiversity の面接授業のようでした。宿屋のテレビが朝晩大陸移動や地震の話を放映しているので，ライエル以来，地球科学を大切にする伝統かと思いましたが，これもOpen University の放映でした。

ルイジアナの州立大学で生涯教育学部の宿舎にとめてもらいました。そこでは車イスの数グループが授業をうけていました。また南加大学には放送用アンテナがキャンパスの中央にそびえており，通信教育の電波を流しているとのことでした。ウズホールの海洋研究所でエメリー教授は，図書館に世界中の海洋の雑誌がはじめから現在まで集まっていること。２４時間開いているのが自慢だと誇らしげに説明してくれました。コーネル大学でも図書館は毎晩夜中の１２時まで開館し，日曜も昼から夜中まで開いており，訪ねた大学で

そのようなのが普通のようでした。開かれた大学を考えると問題は沢山あるようです。

ドイツにおける私の時間

── 西ドイツ・ロイトリンゲン教育大学での留学中間報告 ──

教育学部養護学校教員養成課程　3年　石　倉　充紀（ミキ）

ここ，西ドイツに来てから，もう4ケ月がすぎた今も，まわり中に驚くこと，感動させられることがいっぱいで，残された時間はだんだん少なくなっていくにもかかわらず，やりたいことが増える一方で，何から手をつければよいのやら……とオロオロしています。

私が今一番興味のあること，そしてやらなくてはならないことは，もちろん特殊教育（Sonderpädagogik）に関することですが，こちらの大学でうれしく思ったことは，特殊教育そのものの存在が大きく，学生の数も多く，またそれに興味を持っている人がずいぶんたくさんいるということです。ですから，講義に対しても真剣で，いつも質問が絶えません。教授が話すのは30分ぐらいで，あと1時間以上は質問，意見のかわし合いということも珍らしくなく，また，教授はほんの二言三言だけで，あとは学生が自分で調べてきたことを発表し，それについて皆で考えるという時間も多くあります。私は，教授や，しゃべっている学生の顔をにらむように見つめて，なんとか聞き取ろうとしているのですが，こちらへ来てからドイツ語の特別訓練を受けたあとの今でもまだむずかしく，わからないところは隣りの人のノートをのぞいてと思っても，なかなかついていけません。日本語の場合，ボーッとしていても少しは聞き取ることができますが，時々，思わぬところで「日本ではどうですか」などと質問されることもあり，ここではちょっと油断するとわからなくなってしまうし，相手の顔をにらんでいないと（これは無意味なことですが）理解することはもちろん，たったひとつの単語をも聞き取れなくなってしまうので，ボーッとなんてしていられません。

そのため講義中は聞くことに専念して，あとで友だちからノートを借りて写しているのですが，今でこそ慣れたものの，はじめはこれがアルファベットの字かと思うほどで，書き出しの〃Z〃さえ読みとれませんでした。

また，毎週水曜日には，言語のおくれた子どもの幼稚園に行ってTherapie を行なっています。これは私にとって最も興味深く，また勉強になる時間です。言語がおくれたといっても，早口だし，よくしゃべるので聞き取れず，子どもの方が私に対してかえってゆっくり話しかけてくれたりで，ずいぶんショックも受けましたが，これが良い経験になるように思います。

大学の講義の他に，個人的な興味として，できれば手話を習いたいと思っていたのですが，そのような会が見つからず，とても残念です。しかし私は欲ばりですから，その他にもたくさんの子どもと接したい，いろんな学校をまわって様子をみてみたい，また家庭に入ってそのような子どもと一緒に生活してみたい，などやりたいことがたくさんあるので，できる限り試してみたいと思っています。

時間がたつのは本当に早くて，一日が終ると．もったいないと思うこの頃ですが，ぎりぎりまで〃ドイツにおける私の時間〃として大切に，悔のないようにするつもりです。

※文部省教員養成大学・学部学生海外派遣制度の奨学金による9人目の派遣学生として西ドイツ・ロイトリンゲン教育大学に昭和57年10月から昭和58年7月まで留学中。

請　多　関　照

―どうぞ，よろしく―

工学部化学工学科留学生
（潘陽化工学院教師）　胡　国　良

去年十二月二十日朝の八時ごろ，ペキンの首都空港から中国民航（CAAC）機で，四時間半ぐらい（シャンハイ空港に一時間ぐらい滞在）かけて，貴国の首都―東京に到達しました。その日はとてもよい天気で，快い気持になりました。それから二年間に及ぶ初めての土地での勉強と生活がはじまりました。潘陽を出る時，学院の教職員や家族は数十人駅へわざわざ見送りに来て，熱心にいろいろな話をしました。そして中

日友好のために自分の力を尽し，学習の務めを果すことを祈るといいました。今も，郷里の人達の別れを惜しむ気持を思い浮べることがあります。

私の勤めている瀋陽化工学院はもちろん瀋陽市にあります。瀋陽市は遼寧省の省会（省庁所在地）であるばかりでなく，中国の主な重工業都市の一つです。人口は三百万余りで，その歴史はかなり古いです。その真中に清代の初めての皇帝の皇居があり，東のほうに東陵があり，北のほうには北陵があります。陵というのは昔の皇帝の墓所のことです。今まで数百年ぐらいの歴史があります。これらは古跡として，保存されてきています。解放後公園になりました。毎年たくさんの内外観光客が見物に行っています。瀋陽市の西の鉄西区には，大きい工場が並び，例えば精錬工場，製薬工場，化学工場，旋盤工場などがそこに集中しています。重工業だけでなく，軽工業，サービス産業もわりに発達しています。同時に瀋陽市は遼寧省の政治，経済，科学，文化，教育の中心地だと思います。東北工学院，中国医科大学，遼寧大学，遼寧中医学院のような大学は十七，八ケ所，専門学校，高等学校，中学は二百ケ所余りがあります。話によると，遼寧大学と富山大学とは姉妹校の関係を結んでいるそうです。ほんとうにいいことだと思います。両校の友情がたえず発展することを祈ります。遼寧大学は北陵公園の近くにあります。学校のまわりは比較的に静かで，空気もきれいで，その景色もすばらしいと思います。富山大学の学長先生や諸先生方がいしっしゃるのを心から待ち望んでいます。

日本に来て，もう一ケ月半余りが過ぎました。外国に来たことははじめてですので，まだ慣れないところや分らないところがたくさんあります。しかし，この度のように貴国へ勉強に来ることがまだ容易ではないなかで，私がこれから約二年間にわたり，田中教授先生はじめ，諸先生方のご指導のもとで，「物質移動の理論と実験技術など」についての学習と研究をさせていただけることをとても喜んでいます。ここでの勉強をとおして，本国へ帰ったあと，化工学院での私の授業と研究がよりよく行えるようになるでしょう。これも自分の留学の主な目的です。こちらに来てから，諸先生方や職員の方々にはいろいろとおせわになっておりますが，貴学の皆さんが非常に友好的であることに私は深い感銘を受けました。この機会をお借りして，心よりお礼を申しあげます。最後に中日両国人民の友情が今後共たえず発展することをお祈り致します。

（注）胡氏は，中国政府派遣研究留学生です。

生活協同組合創立20周年に当って

生活協同組合理事長（教養部教授）　藤　井　昭　二

昭和５７年１２月３日，学長先生はじめ学生部，事務局，各学部の方々，歴代理事長，関係諸団体，業者，専従者，役員が集って盛大に２０周年の記念式を開催できましたことを主催者として厚くお礼申し上げます。

昭和３７年に富山大学生活協同組合が先輩の努力で創立され，先輩の献身的な努力により何もないところから，現在みるように食堂ができ，購買にも，食品，書籍，文房具等日常の大学生活を行なうのに一応ことかかない体制になっています。その間出資金も２６倍になり，売上げも３５倍，９億円を目指すようになりましたことを報告し，暖かく見守っていただいた大学当局と皆様の支援とご協力に感謝致します。生協は大学が直接たづさわることのむづかしい，組合員の厚生福利施設を運営していると自任しています。大学で学部の自治とか，いろんな自治が言われています。教官団や学生団だけの自治のことが多いようですが，大学生協は学生・教官・職員の集まった唯一の自治組織であります。

「生協は営利を目的としない，利用者相互の協同互助の団体であって未来の社会の先取りである」と前理事長の柿岡先生は述べられています。理想に一歩でも近づくように運営したいものです。

２０年の間に大学紛争等幾つかの大きな波がありました。今きわめて大きな波を２つ目の前にしてフンドシを締め直してかからないといけない状態です。１つの波は学生の食生活の変化ということです。今まで学生協の売り上げや人員に占める食堂の位置が非常に大きく，今後とも大きいに違いないがどんどん食数が減っているということです。これは全国的な傾向で富山大学だけの問題でない。いくつかの大学の依託業者が食堂を徹退はじめ，引き受け手がなくなってきたということを聞いたりします。しかし大学生協は組合員の

信頼を得てやっているので，収益が上がらないからといって徹退することができない組織です。この問題にどのように対応するか，大きな問題です。もう一つの波は工学部移転に伴なう業者導入の懸念です。工学部の新施設については，富山大学生協としては勿論引受ける準備をしており引き受ける覚悟です。

しかし幾ら生協が力んでみても大学の構成員の皆が認めないとどうにもならないことです。我々は我々なりに自省して仕事を進めており，できる限り組合員の要望を受け入れることを考えています。しかし要望がでてこないことにはどうしようもありません。勿論学生実態調査などを行ない対応をしているつもりですが，富山大学生協は，たえず反省し，新陳代謝して充分やっているという実績を示し，現在以上に信頼されるよう，組合員の要望に答えてすすみたいと思っています。

今後とも生協に対する要望，と理解とご支援をお願いいたします。

教養部だより

昭和５７年度教養部公開講座が１０月１３日(水)から１１月１７日(水)までの約１カ月の間，１５回にわたって行なわれました。今年度のテーマは「明日を生きる」で，人文・社会・自然・体育・語学等教養部の全分野の教官が参加し多彩な内容のものとなりました。受講者は６０名で，講義題名・講師等は以下の通りです。

番号	月　日	曜	講師名	専攻	題名
1	10 月 13 日	水	稲垣保彦	保健体育	開講式　余暇と教養　―自己活性化―
2	10 月 15 日	金	木越　治	文学	ある論争　―上田秋成と本居宣長―
3	10 月 18 日	月	岩田　弘	数学	数学の美しさ
4	10 月 20 日	水	勝野良一	フランス語	現代日本語詩の音楽性について ―マチネ・ポエティック同人の押韻定型詩を中心に―
5	10 月 22 日	金	奥原　宀	英語	現代イギリス事情
6	10 月 25 日	月	桂木健次	社会環境論	経済学にみる人間の復位
7	10 月 27 日	水	藤井昭二	地学	資源と人類
8	10 月 29 日	金			
9	11 月 1 日	月	岡村信孝	哲学	現代世直し論
10	11 月 5 日	金	北村潔和	保健体育	高齢化社会と体力
11	11 月 8 日	月	二神　弘	地理学	外国を知るということ
12	11 月 10 日	水			
13	11 月 12 日	金	梅村智恵子	心理学	なぜものはそのようにみえるのか ―教育のジレンマについて―
14	11 月 15 日	月	鍬田邦夫	経済学	情報化社会の一つの見方 ―経済学の立場から―
15	11 月 17 日	水	全員		パネルディスカッション　閉講式

学生部だより

◆ 共通第１次学力試験の実施について

昭和５８年度大学入学者選抜共通第１次学力試験が去る１月15日(土)，16日(日)の２日間にわたって全国いっせいに実施された。共通第１次の制度が始まって以来５年を経過し本年は第５回目のものである。本学では３５１７名（男２１９９名，女１３１８名）の受験予定者のうち試験当日の欠席者が８８名あったので実質の受験者は３４２９名となり欠席率は2.5％であった。〔富山医科薬科大学は９００名の受験予定者で欠席率は4.2％〕

この欠席率については全国的には5.37％で，新聞によれば共通１次離れが起ったと報じているが，本県のみについていえばそれ程顕著なものとはいい難いようである。

心配された試験当日の全国の気象状況も本年は過去

5年のうちでも極めて良好で，積雪などによる障害は皆無であり本学においても無事平穏に実施することができたことは，関係者の御協力をいただいたことと共に大変有難いことであった。

◈ 体育系サークルリーダー研修会について

本年度の研修会は，2泊3日の日程で山野スポーツセンターにおいて下記のとおり実施され，各サークルの代表者が参加し熱心に討論した。

又，今回は最近サークル活動中における事故が多いので，分科会でもこの問題をとりあげるとともに，特に富山医科薬科大学の山田先生（整形外科）に〝スポーツにおける事故と応急措置〟に関する講演をお願いし，有意義に終了することができましたことを報告するとともに，ここにあらためて関係各位に感謝いたします。

● 実施概要

期　日　昭和57年11月20日(土)～22日(月)（2泊3日）
場　所　富山県体育協会　山野スポーツセンター
　　（富山県上新川郡大山町本宮）
参加者　体育会役員及び運動部リーダーの学生約80名
指導助言者

学生部長	教　授	四谷　平治
教育学部	〃	白川　郁子
〃	助教授	山下　三郎
〃	〃	西川　友之
教養部	教　授	有澤　一男
〃	助教授	北村　潔和

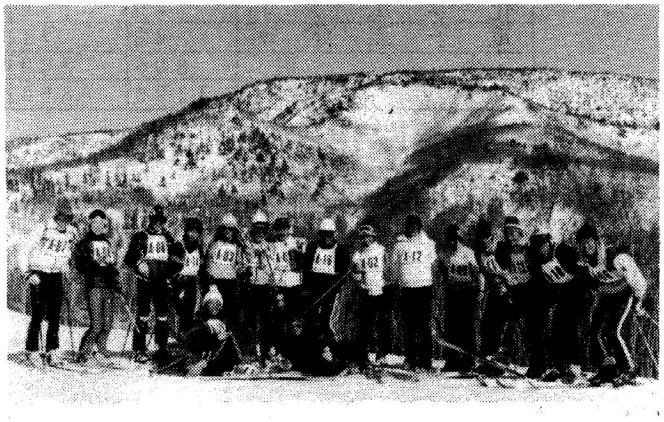
研究項目　ークラブの和ー
　(1) 各部員のクラブに対する意識について
　(2) クラブ内における対人関係について
　(3) 後輩育成と対外交流について
　(4) 事故応急措置，施設利用等について
講　演　〃思い出に事寄せて〃
　　（体育会会長　柳田　友道）

◈ スキー講習会について

本年度のスキー講習会は，前年度同様1月7日から13日までの1週間にわたり，志賀高原ブナ平スキー場を中心として行われた。

富山を出発した時は全く雪がなく，ブナ平でも積雪が少なく心配しましたが，参加者の心掛けがよかったせいかその後降雪にめぐまれ，充実した講習会となり多大の成果をあげ，無事終了することができました。

これもひとえに指導いただいた諸先生方並びに体育会の諸君のおかげと深く感謝いたします。



◈ スキー講習会を終えて

実行委員長　和　田　昭　雄

今回で23回目を迎えましたこのスキー講習会は，「スキー技術の向上と体力増強を図るとともに，規律正しい集団生活の体験を通じて協調性を養い，又学生間，及び学生・教職員の懇談により，一層の人間形成をはかり信頼感を高める」という目的のもとに行なわれました。講習中は，指導教官の方々の厳しい御指導に音をあげる参加者もいましたが，志賀高原の大自然の中でスキーの醍醐味を十分に味わうことができたと思います。又夜には，班ミーティングやコンパが行なわれ楽しい時間を過ごしましたが，明日の講習のために10時には就寝しなければならず，もっと語り合いたいとか，酒を飲みたいという意見もありました。ま

た講習会の後半には壮麗な松明滑降やバカ騒ぎの演芸会も行なわれ，ますます参加者の親睦は深まり，思い出深いものとなったようです。このようにスキー講習会では，「昼は厳しく，夜は楽しく，時間厳守の3拍子で行こう！」をモットーに気を抜く暇もない程充実した一週間を過すことができました。

このスキー講習会は来年からもずっと続いて行くと思いますが，まだ参加したことのない方には学生生活の良き思い出を作るためにも是非参加してほしいと思っています。そして，みんなで一丸となってこのスキー講習会を発展させて行きましょう。

◈ 昭和58年度富山大学入学志願者数調

学部	学科・課程	昭和58年度 募集人員	昭和58年度 志願者数	昭和58年度 倍率	昭和57年度 募集人員	昭和57年度 志願者数	昭和57年度 倍率	備考
人文学部	人文学科	90	273	3.0	90	393	4.4	
	語学文学科	80	213	2.7	80	275	3.4	
	小計	170	486	2.9	170	668	3.9	
教育学部	小学校教員養成課程	140	210	1.5	140	239	1.7	
	中学校教員養成課程	50	148	3.0	50	131	2.6	
	養護学校教員養成課程	20	50	2.5	20	72	3.6	
	幼稚園教員養成課程	30	113	3.8	30	138	4.6	
	小計	240	521	2.2	240	580	2.4	
経済学部	経済学科	120	469	3.9	120	202	1.7	
	経営学科	120	732	6.1	120	337	2.8	
	経営法学科	60	432	7.2	60	182	3.0	
	小計	300	1,633	5.4	300	721	2.4	
理学部	数学科	40	74	1.9	40	80	2.0	
	物理学科	40	53	1.3	40	60	1.5	
	化学科	40	60	1.5	40	94	2.4	
	生物学科	30	68	2.3	30	80	2.7	
	地球科学科	30	89	3.0	30	60	2.0	
	小計	180	344	1.9	180	374	2.1	
工学部	電気工学科	50	102	2.0	50	102	2.0	
	工業化学科	45	118	2.6	45	170	3.8	
	金属工学科	40	127	3.2	40	138	3.5	
	機械工学科	50	174	3.5	50	159	3.2	
	生産機械工学科	40	125	3.1	40	93	2.3	
	化学工学科	40	152	3.8	40	104	2.6	
	電子工学科	40	71	1.8	40	78	2.0	
	小計	305	869	2.8	305	844	2.8	
合計		1,195	3,853	3.2	1,195	3,187	2.7	

◈ 学生証の査証について

1，2，3年次生は，各学部の学務係（教養部においては学生係）で，昭和58年度の査証を行いますので必ず受けてください。

なお，査証を受けない学生証は無効となります。

◈ 交通事故に気を付けましょう!!

最近，連日のように交通事故のニュースがテレビや新聞等で報道されていますが，皆さんは，自動車・バイク等を運転する場合のみならず，歩行中も安全の確認には十分留意してください。

又，キャンパス内で自動車・バイク等を運転する場合は歩行者の安全・騒音防止等に留意してください。

◈ 学園ニュース編集委員

学生部長	四谷平治	理学部	松本賢一
人文学部	山口幸祐	〃	広岡公夫
〃	釘貫亨	工学部	多々静夫
教育学部	大塚恵一	〃	杉本益規
〃	山本都久	教養部	木越治
経済学部	今井晴男	〃	山本孝一
〃	小原久治		